

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2272300969		
法人名	特定非営利活動法人 シンセア		
事業所名	グループホームたみの里一日乃出町 1・2階ユニット		
所在地	静岡県富士市日乃出町 81		
自己評価作成日	平成22年9月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	非営利活動法人 しずおか創造ネット		
所在地	静岡県静岡市葵区千代田3丁目11番43の6		
訪問調査日	平成22年10月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日本の季節行事を行なったり、外出を通して季節感を持っていただき楽しんで一年を過ごしていただけるよう努めています。又、入居者の健康管理にも力を入れており、毎日の献立の栄養管理を行ったり、体重の増減から栄養状態を見たり、生きる励みになるようにと、ご本人の興味のあるアクティビティーの提供を個別に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

富士山を仰ぎ見る、181号線沿いに位置する当施設は2003年11月開所以来、地域に密着した事業所として、利用者や家族から厚く信頼を受ける施設です。特に理事長の施設への熱い思い(施設名の由来等)は、職員間にも共有されています。施設内は明るく元気なホーム長や職員のもと、入所者の笑顔と生き生きした姿が見受けられました。今年度の目標でもある栄養管理・献立の工夫は、市の協力も得て、入所者の健康管理に気を配っています。又 入所者の生きがいを引き出す工夫として、趣味活動や作業活動が盛んで、毎年の福祉作品展へは、出品を続けています。今後も家族や地域から、信頼と期待が大いに寄せられている施設です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「生き生き生きる」を運営理念とし、管理者、職員はその理念を共有し、一丸となり取り組んでいる。	利用者は手芸や散歩を通じ、生き生きとした笑顔が見られ、理念は施設内で実践されていました。施設では日々の申し送りや、定例会で理念が職員間で共有され、家族アンケートでも感謝の気持ちが、確認されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	1月には地区の公園にてとんどん焼きに参加し、地域の方々との交流を図っている。	自治会へは加入しており、古紙回収など行事には、積極的に参加交流を図っています。昨年までは町内の敬老会行事に参加をしていましたが、今年は夏祭りに参加しました。又同じ地区にある、グループホームとは、交流を深めています。	地域事情は有りますが、地域密着型サービス事業所としての、かかわりを尚一層広げる工夫を期待致します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩時にも、近隣の方への挨拶は利用者と共に行き、時折 談話をして交流をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月の1度開催し、意見交換をするようにしており、その中で市町への質問などが出ると、次回には必ず回答があり、貴重な交流の場となっている。	運営推進会議は定期的、かつ意欲的に開催されており、家族や市との重要な意見交換の場となっており、有効に機能しています。地域周辺事情も有り、地域住民の参加数が少ない現状では有りますが、出来るだけ多くの方の参加を施策中です。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	申請等必要な時はご本人様をお連れしたり、運営推進会議を通して意見交換をしている。	市の窓口や介護保険課は、大変協力的です。困りごと相談や、問い合わせ等、日頃は電話や、メールで行われています。先般の推進会議では、キラメッセ駐車場の問題を早速解決して頂きました。又車椅子対応の施設など、情報を頂いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間防犯上の施錠以外は一切の施錠はしていない。	”身体拘束はしないケア”は当然と考えており、施設内は昼間は施錠していません。玄関にはベンチを設けて、利用者の心理誘導の工夫をしています。又、身体拘束をしない宣言書を掲げて、職員間で共有しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は虐待防止のための研修などに参加する機会を持っている。また、全員が虐待に対してのあつてはならない行為を理解してケアしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加したり、購読している本に情報があれば提供し、御家族から相談があれば対応できるよう心がけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者の家族に十分な説明をして、疑問があれば納得のいくように説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「御意見箱」というものを設置し、御家族の方や外部の方の意見を取り込めるようにしている。	玄関には意見箱が置かれていますが、あまり意見は入っていない様です。来所した家族からは、意見が言いやすい雰囲気を作り、要望や意見を聞いて、ケアに反映させています。上手く表現できない利用者の意見は、日頃観察で推し量っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月各ユニットリーダーと管理者で会議を開き、現場の意見や問題などを討議している。	申し送り帳や、定期的に行われる会議において、職員の意見や要望は、管理者に届き、運営やケアに反映される仕組みになっています。例としては、職員がケアに専念する為に、食材は配達してもらい、入居者様と一緒にいられる時間の確保に努めるなど、工夫をしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度末に職員に向けて自己評価を行い、各自の意欲向上を促している。また、委員会活動を通し業務に責任を持ち自らが働きやすくなるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は事業所全体の委員会が発足し、職員のニーズに対応するように動いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	富士市内のグループホーム連絡会に参加し、研修や職場交換実習をするなどして、自らの施設を見直し、サービス向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時はこまめに声かけをし、その方の暮らしてこられたこれまでの様子を聞き取りケアに生かせるよう努力している。また、家族からも出来るだけ話を聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時は家族に対して連絡をこまめにとり、要望や不安なことなど聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時ご家族の施設に対して希望することなどを聞き、サービスに生かすよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と食事を作る時など、調理方法を教えてもらったり、普段の会話の中でもたくさんのことを教えてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者が家族との面会を希望している時は、すぐに家族と連絡をとり、面会してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人、知人、なじみの方との面会はいつでもできるようにしている。	遠方からの来所者もありますが、地元の「伝法」の知人が良く訪ねてくれます。家族や知人からはよく電話が有り、取次ぎをしています。お墓参りは家族の協力を得ています。先日は、思い出の場所にドライブに行き、自宅周辺を廻ってきました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食後の食器拭きや、レクレーションの時などにも、利用者同士が関わり合いの出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移られた方を皆で訪問して昼食を取ったりするなどして、必要に応じて、その家族の相談に応じるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の会話の中で不安や悩み等の思いや希望などを見つけ、職員間で話し合っている。利用者の希望に添えるよう努めている。困難な場合は家族との連携を取り、意向にそえるよう努めている。	利用者の今使える機能を使って、思いや意向は可能な限り、ケアの中に取り入れています。当施設では、作業活動が盛んで、福祉作品展への出品が多いようです。共有された、思いや意向は、可能な限り、各人に適用されています。	各人が日々「生き生き生きる」為にも、日常的な暮らしの中から、更なる情報収集と観察を期待致します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、利用者本人や家族からの情報収集を行い、アセスメントシートが作成されており、利用者の生活状況・身体状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状況を把握するために、バイタル・食事量の定期的なチェックと観察を行っている。利用者のできる部分は利用者の力で出来るよう援助している。身体機能の維持のため、体操やレクリエーションの提供に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者が暮らしやすいよう問題点のあり方についてカンファレンスを行い、家族や関係者からの情報収集も行った後、可能な限り利用者や家族の意見に添ったケアに生かしている。	各階ともケアマネの意見や、職員のアイデア・関係者の意見等が集約されて、介護計画が作成されています。利用者の満足感が得られるように、きめ細かく、モニタリングもされており、各人に即した計画が作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の生活状況や心理的変化、身体状況等ありのままを経過記録として記入している。経過記録は職員間で共有されており情報交換により実践に反映されるよう努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況によりその都度検討され、実行後はそのサービスが適切であったか再度皆で話し合い、より良いサービスの提供ができるよう柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要時であれば地域資源を活用し、利用者一人一人が楽しむことに協力して頂く。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の体調管理を行い受診状況等は家族と連絡を取り合い、安心して頂けるように努めている。	提携医から訪問看護師が週2回来所して、利用者の健康管理は、万全がきされています。又 その際の受診状態は家族にも報告されています。従来のかかりつけ医への受診も、希望に合わせて対応しています。緊急時はご家族と連絡をとって職員対応です。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護日誌を作成して、利用者の日常での変化にいち早く気づき、職員と看護師の間の情報交換に利用している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際はホームでの提供に努め、利用者が不安にならない様徹底した治療を行うよう協力している。又、入院中は家族に安心して頂ける様、情報交換をしている。また利用者・家族と面会し退院が円滑に行くよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の今後の対応に対しては、家族と話し合い、意向を元に状況を把握しケアをするよう努めている。又主治医と話を重ね、家族と入居者を安心させ、チームで支援に取り組んでいる。	看取り及び医療連携に関する指針に従い、早い段階から終末期の有り方について、本人・家族と話し合いを持っています。避けては通れない、重度化への取り組みは、職員も含め日頃勉強会を進め、チームで支援する取り組みを行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成して、急変時の対応にあたっている。また職員に落ち着いて対応してもらうため、応急手当や初期対応の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者の安全を第一に考慮し緊急時の対応訓練を行っています。色々工夫し、いかに安全かを考え、避難誘導を全職員で行っています。その際近隣の方にも声掛けをしています。	消防署が5分で駆けつけられる、位置関係に有りますが、年2回の緊急防災訓練は、欠かさず行われています。地域との協力防災訓練も近く予定していて、職員も5～6人のメンバーを決め、短時間で駆けつけられる体制を作っています。	水害や火災のニュースが、多く聞かれる昨今、災害対策はこれで良いと言う事は有りません。尚一層の諸施策をお願い致します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重し、言葉遣いやその時々合った言葉かけするようにしている。	利用者が自分の意思を表現出来る様に、ケアは行われていますが、不適切な言葉かけや、対応が見られた時は、注意をしています。利用者の自尊心や尊厳は、日々のコミュニケーションの中で、職員の連携の下、保たれているようです。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の利用者との会話や行動の中で、一人一人の思いや希望を表現出来るようにし、その希望を読み取り、出来る限り叶えられるように手伝いをするように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のその日の過ごしやすい一日作りを目指して、やりたい事やしたい事を自由に出来るように可能な限りは希望に添えるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容の提供や職員により髪のカットを行っている。起床時には気候に合った服装選びの手伝いをし、利用者によっては髪のリセットを行っている。利用者とお店に出かけ、一緒に服を選び購入することもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立をたてる時には、利用者に何が食べたいかを聞いたり、毎食の残食により、好みを読みとり喜ばれる献立になるよう努めている。食事の準備や片付けの時は、一人一人に出来ることは手伝っていただくようにしている。食事は職員も一緒に食べ楽しみな時間になるように努めている。	食事委員会が有り、特に健康管理面からの食事改善が図られています。残量チェックや各人の好みも把握されていて、楽しい食事風景が見られました。食後は洗われた食器類を数名の入居者が慣れた手つきで拭いていました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事委員やホーム長により献立表を点検し栄養バランスの見直しを行っている。食事と水分摂取が一日を通じて確保出来たかを日誌に記入し利用者の状態の判断材料としている。お茶が飲めない方には寒天にするようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後出来る方にはやって頂き、介助が必要な方には自分ができる部分はやって頂き、出来ない方には職員が口腔ケアを行っている。希望により1週間に1度訪問歯科を受診する利用者もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄パターンを把握し、その人に合わせた時間誘導を実施するように努めている。オムツやパットの使用も一人ひとりの力を活かして必要のない時間帯は使わない。また使用量を減らしていく自立支援を行っている。	排泄チェック表が有り、各人のパターンは把握されています。早めのトイレ誘導や、仕草からわかる誘導など、自立に向けた、取り組みをしています。排泄委員会も有り、提案や検討が行なわれて、オムツの使用量が減ったケースが有ります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分不足や運動不足からくる便秘予防の為に水分摂取の機会を充分にとったり、毎日体操をしたりしている。又栄養士によるアドバイスの元、献立を考えたり毎朝牛乳を提供したりしている。なお必要な方には排泄チェック表で排便量を把握し、薬を調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の利用者個々の状態に合わせて、入浴順序を変えたり、介助の方法や器具の工夫をして安心して入浴できるようにしている。また入浴剤を使用したり音楽を流したり、湯の温度を一人ひとりの好みに合わせたりして、入浴を楽しみやすい環境作りに努めている。	楽しい入浴を前面に出して、基本的には毎日の入浴が行われています。その人の体調に合わせて、各人のペースを守る様にしています。バラの香湯や、ワイン風呂の工夫も行われて、利用者には大変好評のようです。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の習慣や体調によって、午後にお昼寝の時間があり天気の良い日には布団を干すなど心地よく休んで頂けるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の個々のファイルの中に薬剤情報があり、職員はいつでも閲覧することができる。また変化があった時には、看護日誌に記録することで医師に情報が伝わるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力に合わせて洗濯物たたみや食事の準備、後片付けなどの役割りを持ってもらっている。また、個々の時間や集団レクリエーションの時間においても、手芸やゲームなどして頂き楽しみごとを持ってもらうように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候や希望に合わせて日常的に近くの公園まで散歩に出ている。また、近所だけでなく、時には車で遠出したり、計画を立てて季節を楽しむような外出の機会を作ったりしている。また希望があれば可能な限り職員や家族が付き添って、買い物に出たり個人で戸外に出かける支援もしている。	秋の遠足(10月海洋博物館)や紅葉見学・菊花展見学など、外出行事は沢山行われています。その裏づけでもある、行事費が計上されている事も特徴です。日常的には近くを廻る、散歩が行われ、時にはリフトバスでのドライブが有り、心の支えと成って要る様です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物を自由にする楽しみを持ってもらうように自己管理できる方には金銭を所持してもらい、職員と買い物に出た時に嗜好品を購入してもらったり、遠足などの外出時にお土産を購入してもらったりして、本人の希望でお金を使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から希望があれば電話や手紙のやり取りはいつでも自由に行う事ができるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間においては光の強さや温度に注意して不快感の無いようにしている。また居間や廊下には作業活動で出来た季節ごとの壁飾りを展示している。居間からは台所の食事作りの様子やベランダの洗濯物がよく見え、生活感に溢れている。	共有空間はテレビを前に、広いソファでくつろげます。ベランダからの採光も良く、壁には皆さんで作成した、手芸品が飾られて、明るく楽しい雰囲気をかもし出しています。午前中は全体行動で、共有空間で過ごす時間が多く、皆さんの笑顔と楽しい声が聞こえていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中で独りになったり、気の合った利用者同士で過ごせるように席の配置を工夫したり、集まって寛ぎやすいようにテレビの前にソファスペースを設けたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に持ち込まれる家具は、自宅で使用していたものを持参して頂くようにしており、各自が使い勝手が良いように、好きなように部屋作りをしてもらっている。	居室は明るく入所者の愛着ある品々で飾られて、何処か自宅の生活の雰囲気を出しています。テレビを持ち込んだり、家族の写真を飾ったりと、各人の個性有る生活観が感じられ、安心感が有り、居心地の良さそうな、居室状況です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差の解消や手すりの設置によって、利用者個々の歩行や移乗の力を安全に活かしてもらうように努めている。また、タンスの引き出しの中身がわかるように表示したり、各部屋の表札を付けたりしてわかりやすく工夫をし、自立した生活への支援をしている。		